

第24期（2022年3月期） 決算のご説明

2022/5/12



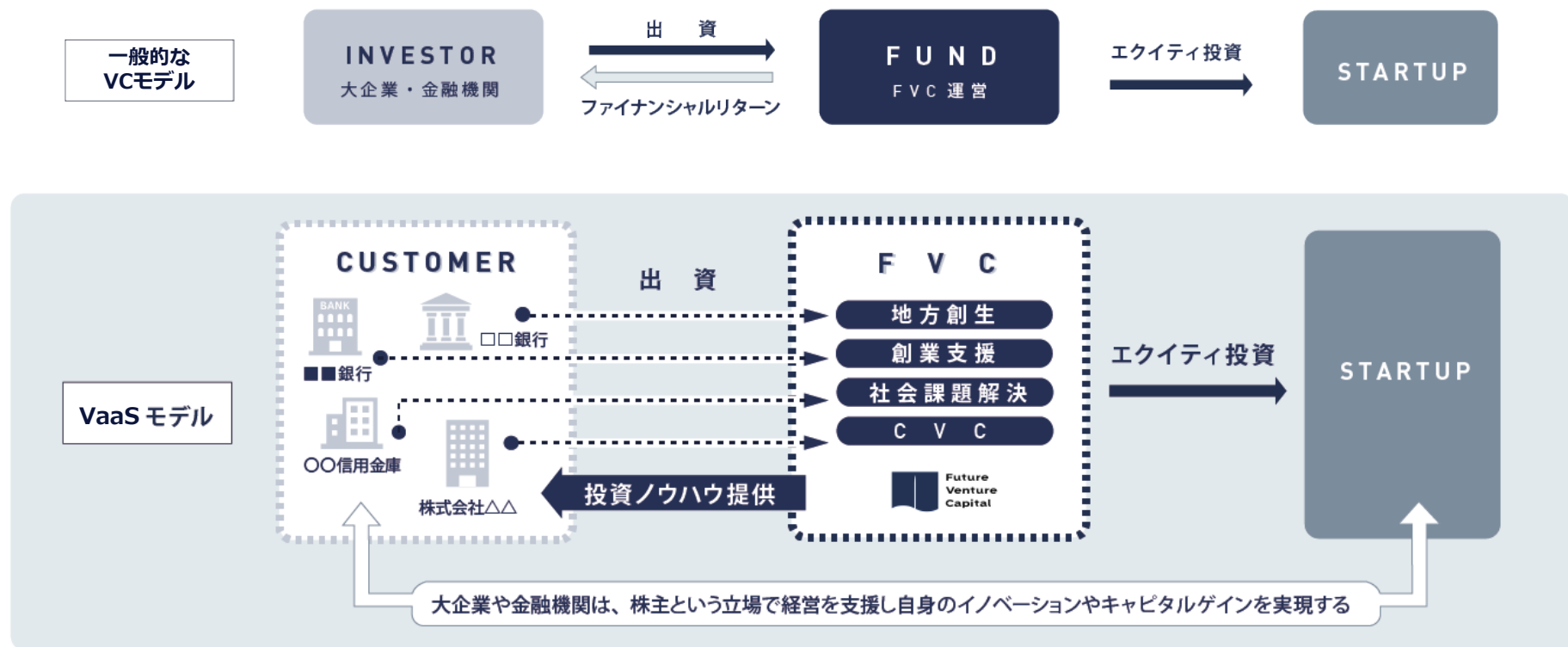
Future Venture Capital

1. ビジネスモデルの説明	・・・P.03
2. 決算説明	・・・P.08
3. FVCの社会的意義	・・・P.20

1. ビジネスモデルの説明



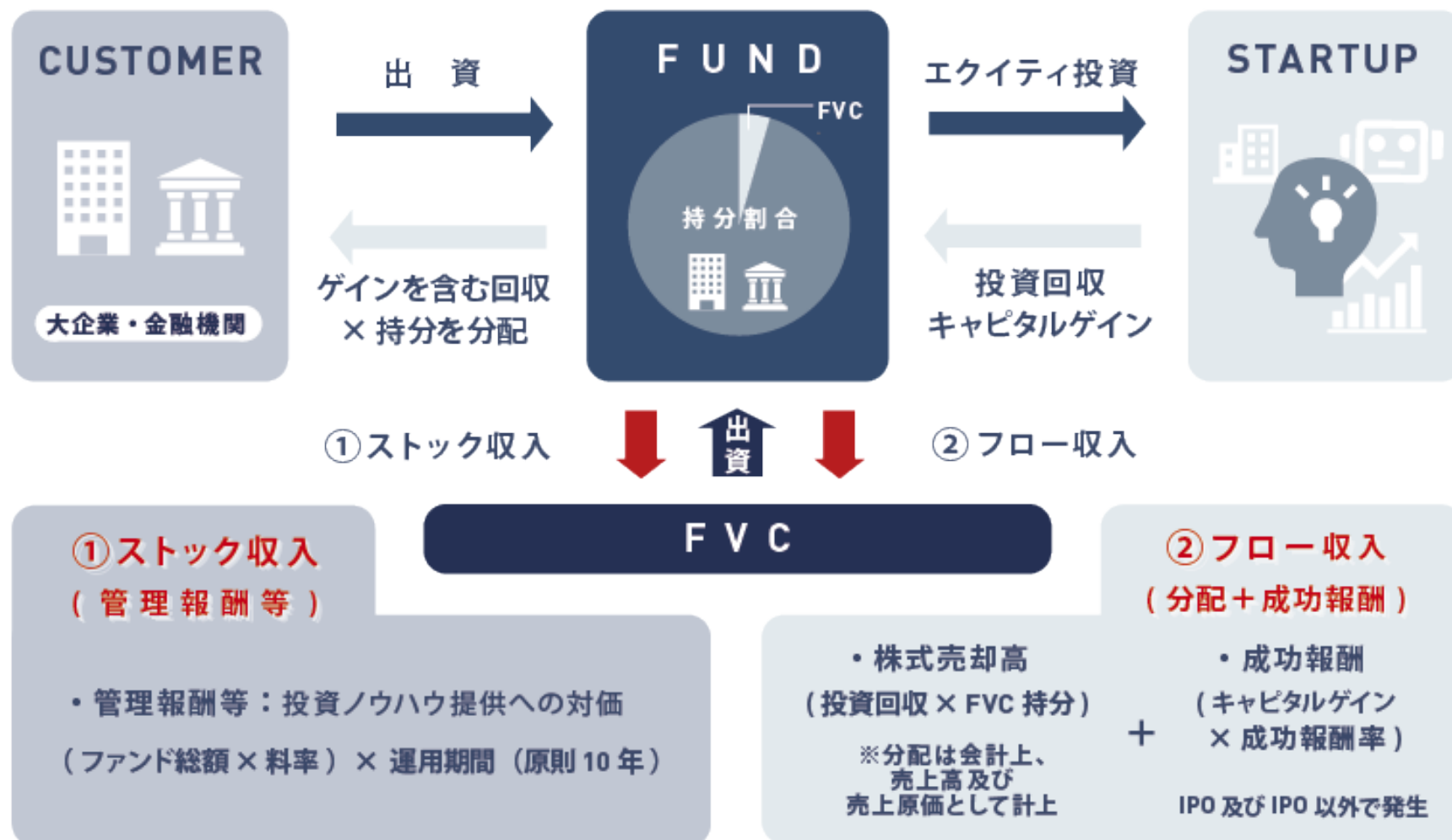
エクイティ投資によるファイナンスリターンをのみ追求から、投資ノウハウを広く提供し、利用者から継続的な収益を得るモデルへ数年かけて転換。



FVCはファンド運営機能の提供者として唯一のポジションを確立し、エクイティ投資に係る様々なノウハウを定額で提供することで長期安定収益体制を構築し、カスタマーの中長期の事業戦略をサポートすることが可能となった。

(VC as a Service=“VaaSモデル”と定義)

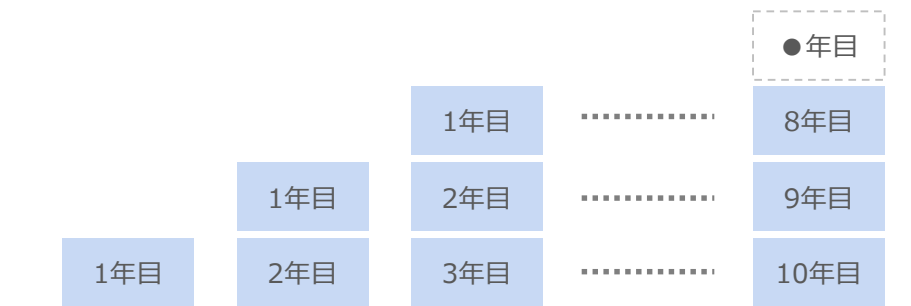
1.2. VaaSモデルによる収益構造



1.3. ストック収入とフロー収入について

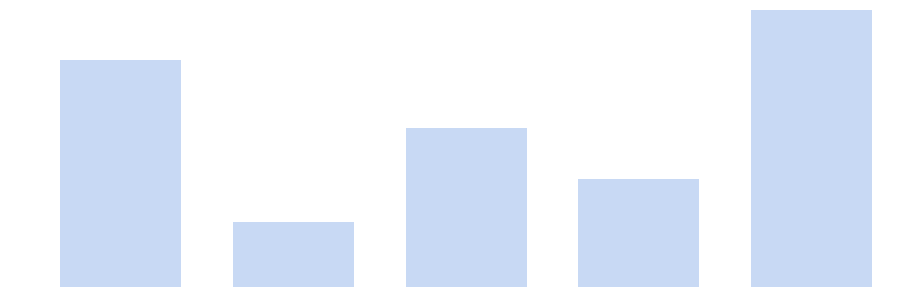
ストック収入

管理報酬は組合契約に基づき、ファンド運営期間中、継続して受領することができます。ファンド本数が増えるほど、安定的な収益を積み上げることになります。



フロー収入

EXIT成果に応じて変動します。主に、営業投資有価証券売上高と成功報酬が該当します。成功報酬の設計はファンドにより異なります。



<成功報酬売上と、営業投資有価証券売上>

当社の決算書における売上区分には、投資先企業の株式売却に伴うものとして「成功報酬売上」と「営業投資有価証券売上」があります。

(※P11に当期売上高の内訳を記載)

■ 営業投資有価証券売上

- ・当社のBSに計上されている「営業投資有価証券」を売却した際、その売却額を表します。
- ・当社では持分法適用関連会社に該当するファンドの持分割合を、主に計上しています。
- ・VaaSモデルにおいては、出資割合を抑える方針を掲げています。

■ 成功報酬売上

- ・キャピタルゲインを獲得した場合に受領しています。一般的には、キャピタルゲインの20%程度ですが、その計算方法はファンドによって異なります。
- ・投資先企業のIPOに限らず、M&Aや自社株買いなど、いずれのEXITの場合も、キャピタルゲインに伴い成功報酬が発生します。

(※一部のファンドは異なります。)

VaaSモデルでは、ファンド総額やNRRをKPIとして設定。NRRは繰り返し発生する収益である管理報酬をどれくらい維持しながら拡大しているかを示す。

NRR（Net Revenue Retention/売上継続率）

管理報酬は一般的にファンド総額に対し一定の料率で定められますが、NRRは次の要素で変動します。

1. New MRR

新規出資者の増加によって獲得できた管理報酬

FVCが組成するファンドに初めて出資する場合。



2. Expansion MRR

既存出資者のリポートにより増額できた管理報酬

FVCが組成するファンドに出資した経験がある出資者が、再び出資した場合。別ファンドの設立の他、同一ファンドの増額など。



3. Churn MRR

既存出資者の出資減額により失われた管理報酬

組合契約で定める条件下で既存出資分の減額が生じた場合など。



4. Contraction MRR

ファンドの料率変更により失われた管理報酬

組合契約書上、管理報酬がファンド後期に料率が低減する場合など。



2. 決算説明

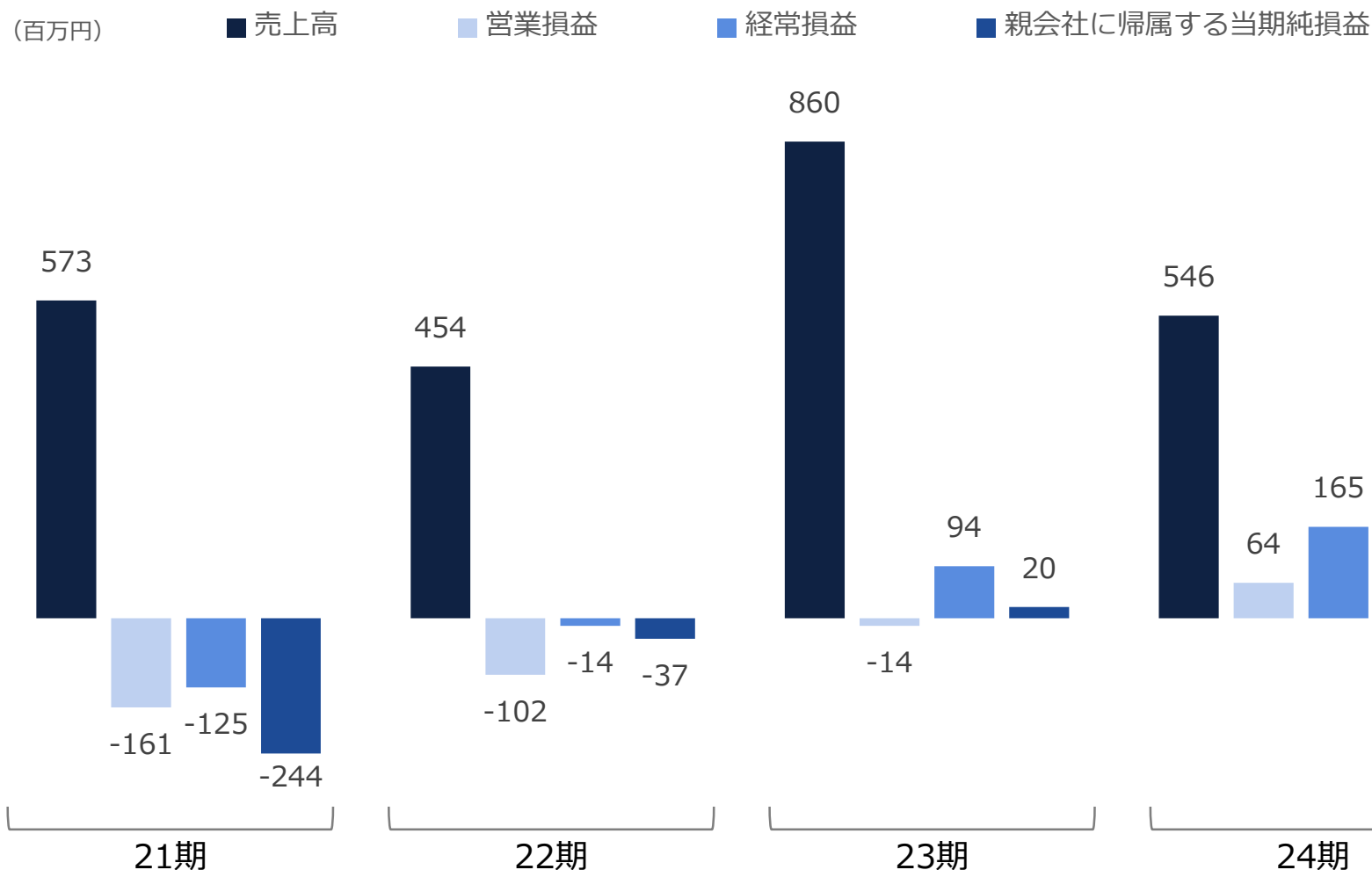


2.1. 決算概要 (PL)

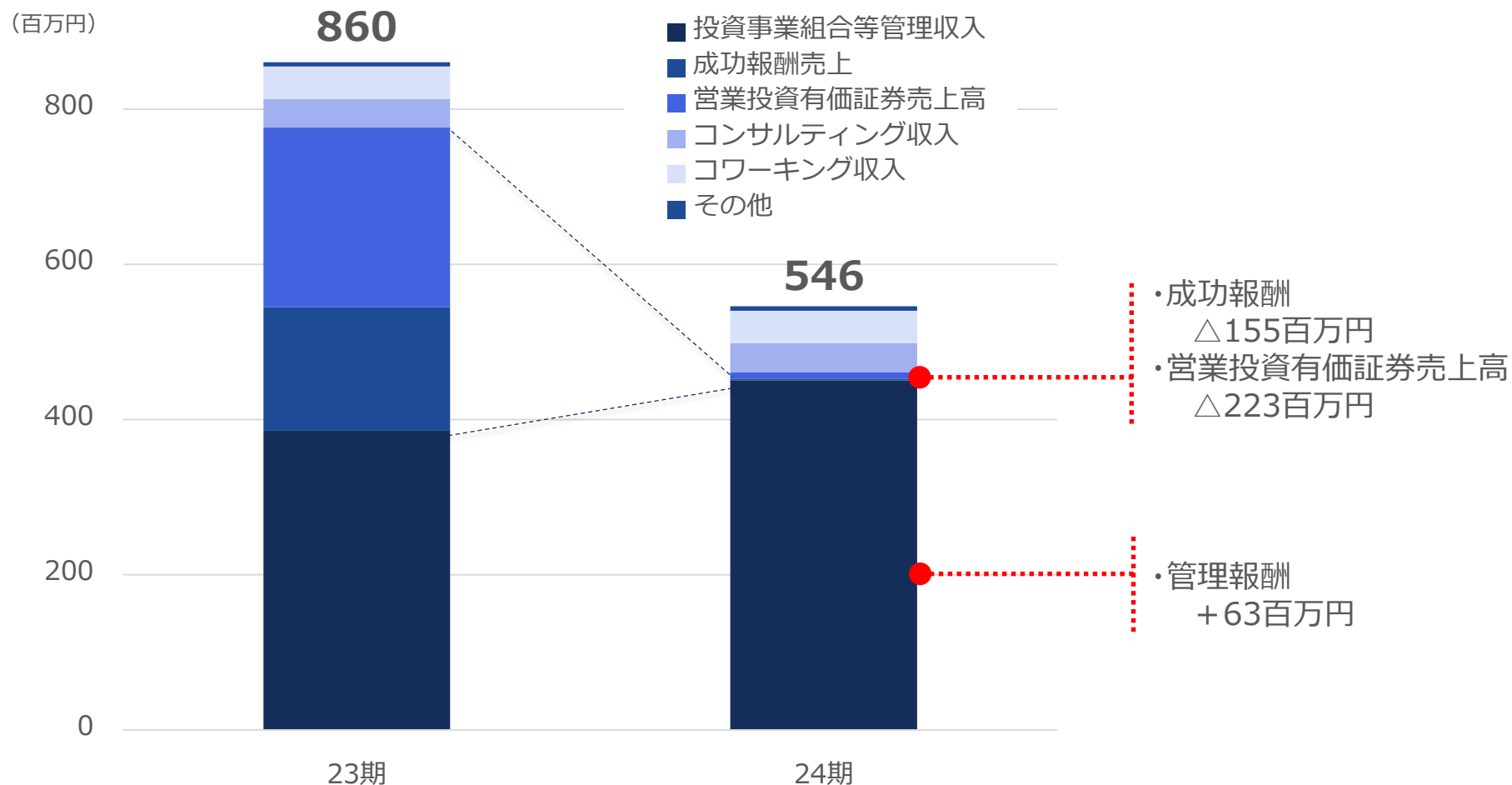
単位：百万円	第23期 (2020/4~2021/3)	第24期 (2021/4~2022/3)	対前期比
売上高	860	546	△314
営業損益	△14	64	79
経常損益	94	165	70
当期純損益	90	146	55
親会社株主に帰属する 当期純損益	20	143	122

2.2. 決算概要（年間PL推移）

第23期は赤字から脱却、第24期は営業利益黒字化、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも**過去最高益を達成**、第25期以降、ファンド増加に伴う投資体制の拡充強化を図りながら、引き続き利益拡大を目指す

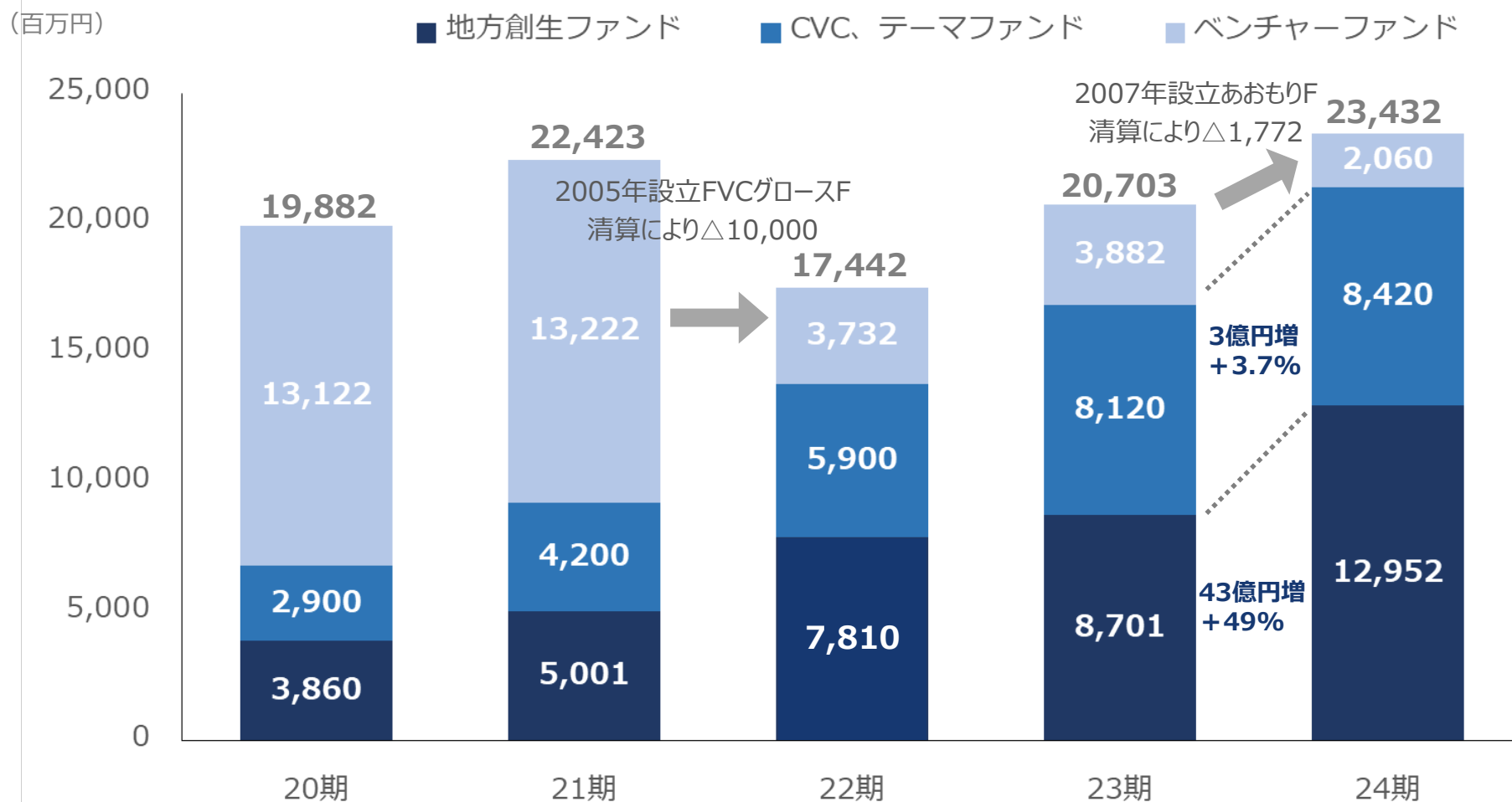


運用中のファンド総額、エリアとも増加拡大し、管理報酬が対前期比で63百万円増加
前期発生した連結ファンドの営業投資有価証券売上およびIPOによる成功報酬がなく、
それぞれ223百万円、155百万円減少。



2.4. VaaSモデルのKPI（ストック収入:運用中のファンド総額の推移）

地方創生ファンドは新規顧客と15億円のファンドを、リピート顧客と28億円のファンドの増額・新設など、前期末から49%増加、CVC/テーマファンドも前期末から3億円増加。多様化するニーズに合わせたファンドを実現することで、ストック収益の拡大を図る。



NRR（Net Revenue Retention/売上継続率）

第23期 第24期

102.7% / 125.0% **+22.3%**



<主な要因>

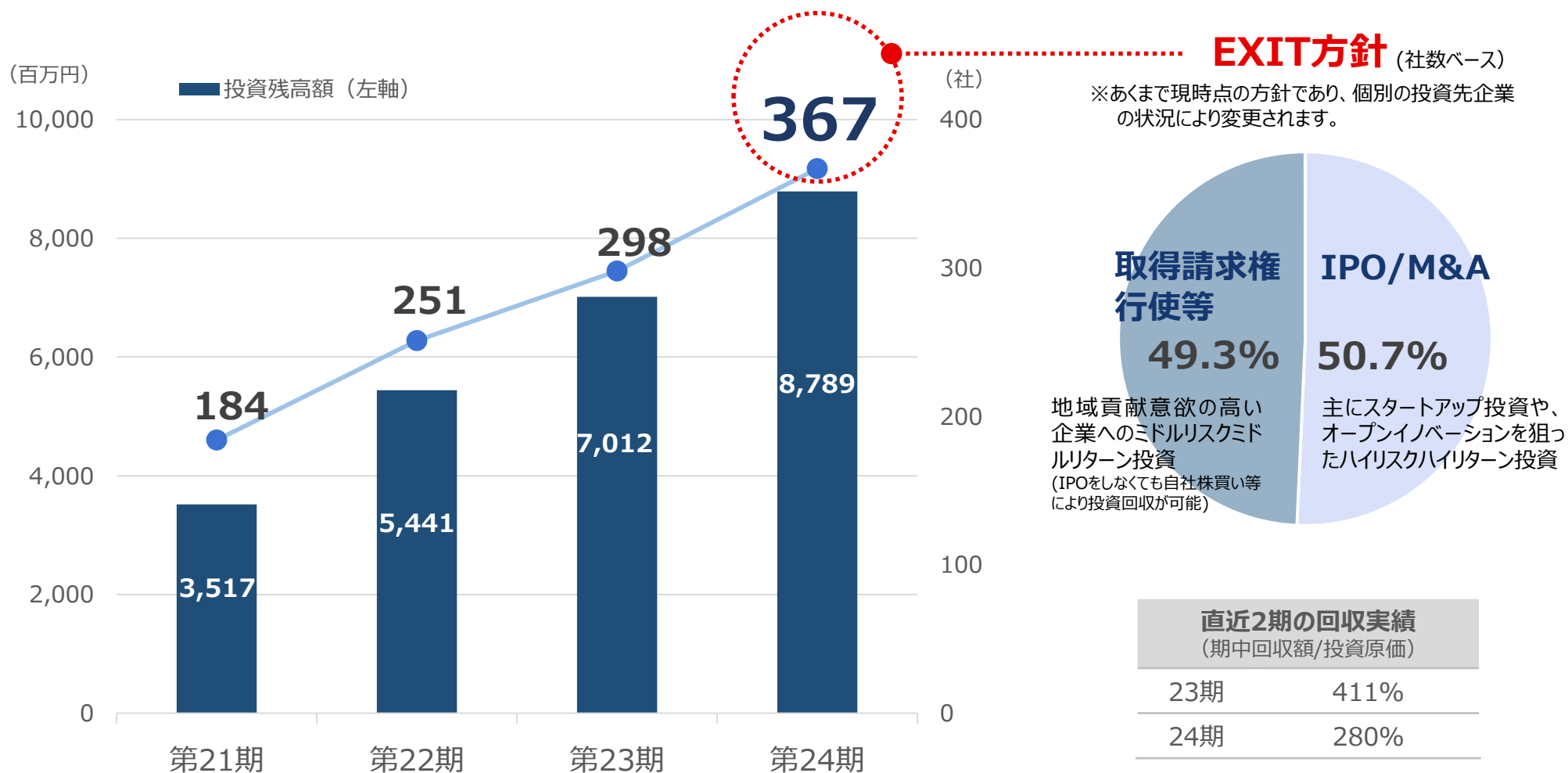
NMRR・・・コロナ下で新規開拓先の地域金融機関は融資支援に注力、ファンド組成の動きが鈍化。特に第23期において顕著に。

EMRR・・・第23期、第24期ともに、本業へのファンド活用メリットを実感した地域金融機関によるリピートを獲得。

第24期はテーマ型ファンドの増額にも成功。

2.6. VaaSモデルのKPI（フロー収入：投資残高、投資社数）

■ **キャピタルゲインの源泉となる当期投資残高は、金額ベースで対前期末比25%増加
社数ベースで対前期末比23%増加**



**FVCグロース二号ファンド（当社出資比率52.6%）より48百万円投資し、
第20期（2018年3月期）に株式を一部売却。
第24期においては売却しておらず、180万株保有中。**



Robot of Everything

所在地	東京都文京区
事業内容	自律移動ロボットテクノロジー事業
資本金	100百万円
投資時点株価	20円
残株数	1,800,000株

持分法適用関連会社であるデジアラホールディングスの業績は、従業員等への退職金制度導入に伴う特別損失の影響で投資利益を32百万円減少させたものの、事業自体は好調を継続し、持分法による投資利益を100百万円計上

※業績数値の詳細は非開示



所在地	神戸市東灘区向洋町6丁目9
事業内容	インターネットを利用した大型住宅設備機器等の販売 など
資本金	99百万円
取得株式数	5,080株（持株比率24.8%）
株式取得実行日	2017年9月28日,11月30日

2.9. ビジネスモデル別経常損益推移

ストック収益による経常損益が4百万円から65百万円と、対前期比で61百万円増加、黒字化後、順調に成長、成功報酬は減少するも、本体直接投資で95百万円計上、デジアラホールディングスが好調継続により、連結経常損益は71百万円の増益。

単位：百万円				第23期 (2020/4~2021/3)	第24期 (2021/4~2022/3)	対前期比
連結経常損益				94	165	70
VaaS H.I.F.	VaaSモデル経常損益-計			155	64	-91
	ストック収益			4	65	61
	フロー 収益	株式売却高		5	2	-3
		成功 報酬	IPO	144	-	-144
			IPO以外	9	2	-7
		引当減損 ※1		-7	-5	2
	従来モデルベンチャーファンド			131	-6	-137
コンサル、コワーキング			4	12	8	
本体直接投資				-197 ※2	95	292

※1. VaaSのビジネスモデルでは出資割合を抑える方針を掲げているため、引当額も抑えることができ、市況悪化リスクの影響を受けづらいビジネスモデルです。

※2. 主な内訳は、デジアラホールディングスの持分法投資利益107百万円、H.I.F.の減損299百万円等

2.10. 決算概要（BS）

単位：百万円	第23期 (2021/3)	第24期 (2022/3)	対前期比※
流動資産	2,335	2,221	△114 (△154)
うち 現金及び預金	2,040	2,058	18 (△154)
うち 営業投資有価証券	108	137	28
うち 投資損失引当金	△7	△12	△4
固定資産	863	921	57
資産合計	3,199	3,142	△56 (△154)
流動負債	365	351	△13
固定負債	33	41	8
負債合計	398	393	△4
自己資本	2,620	2,746	127
非支配株主持分	168	2	△165 (△154)
純資産	2,801	2,749	△51 (△154)
自己資本比率	81.9%	87.4%	5.5%

※対前期比の（内書）は、あおりクリエイティブファンドの分配による影響額です。

2.11. 決算概要（CF）

単位：百万円	第23期 (2020/4~2021/3)	第24期 (2021/4~2022/3)	対前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	277	228	△49
投資活動による キャッシュ・フロー	△12	△42	△30
財務活動による キャッシュ・フロー	△19	△167	△148
現金及び現金同等物の 期末残高	2,040	2,058	-

※当社及び当社が管理・運営する投資事業組合からのスタートアップ等への投資及び売却に係る
キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローにて計上しております。

3. FVCの社会的意義



3.1. 多様なファンドコンセプト

地 方 創 生

事業
ス
テ
ー
ジ

創業・第二創業

(株)ゆうちょ銀行 (株)関西みらい銀行 (株)東日本銀行
(株)愛媛銀行 (株)徳島大正銀行 (株)香川銀行 (株)トマト銀行 (株)豊和銀行
城南信用金庫 大阪信用金庫 神戸信用金庫 福島信用金庫
諏訪信用金庫 京都信用金庫 京都中央信用金庫 京都リサーチパーク(株)
北上信用金庫 北上市 西和賀町
全国信用協同組合連合会 第一勧業信用組合 秋田県信用組合 いわき信用組合
秋田信用金庫 秋田市 大潟村 五城目町 八郎潟町 潟上市 男鹿市 井川町
盛岡信用金庫 盛岡市 紫波町 矢巾町 滝沢市

事業承継

(株)京葉銀行 (株)東日本銀行 (株)豊和銀行
京都信用保証協会 京都信用金庫 京都中央信用金庫 京都北都信用金庫
大阪信用金庫 大阪信用保証協会
全国信用協同組合連合会 第一勧業信用組合
城南信用金庫

テ
ー
マ

社会課題解決・SDGs

鎌倉投信(株) (株)サイボウズ
(株)ソウルダウト
(株)北國銀行 (株)横浜銀行 大阪信用金庫
京都信用金庫 京都中央信用金庫
盛岡信用金庫 紫波町
矢巾町 盛岡市 滝沢市

海外進出支援

京都信用金庫
第一勧業信用組合

再生可能エネルギー

秋田県信用組合
秋田県信用保証協会
全国信用協同組合連合会

農業・食糧問題

第一勧業信用組合 (株)日本政策金融公庫
君津信用組合 笠岡信用組合
北央信用組合 あかぎ信用組合
都留信用組合 糸魚川信用組合
いわき信用組合 秋田県信用組合

オープンイノベーション

ロボット・AI ものづくり

(株)菊池製作所 (株)メイコー
(株)立飛ホールディングス
(株)クアーズ (株)吉増製作所
(株)ハイレックスコーポレーション SMBC
戦略出資4号投資事業有限責任組合

ヘルスケア モビリティ センシング

非開示

モビリティ 新素材 水処理 エネルギー

阿波製紙(株)

新素材 表面加工 次世代技術

(株)フジミイン
コーポレーション

人材管理 採用支援

(株)ウィルグループ

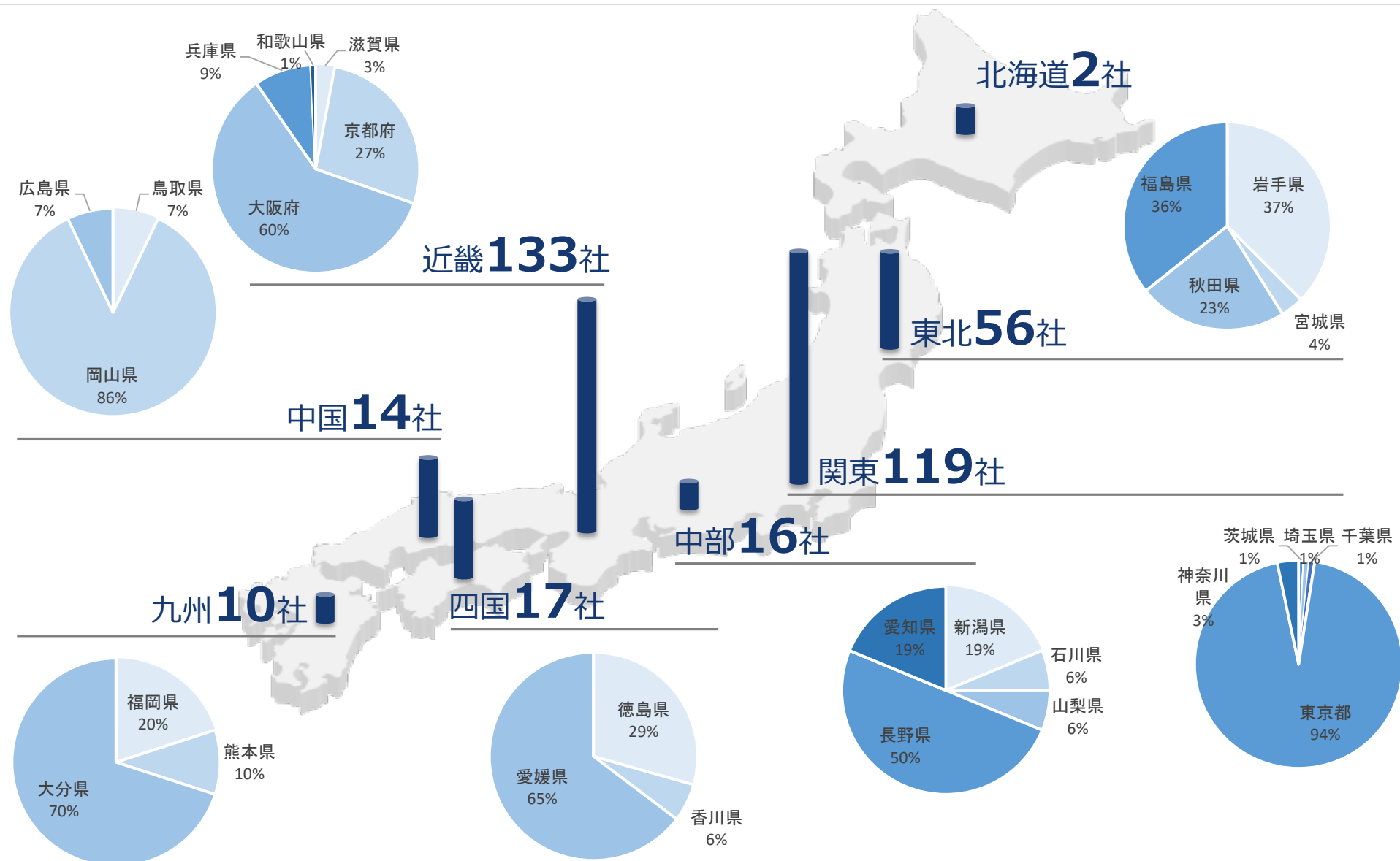
ITサービス 生活関連

(株)デジアラ
ホールディングス

不動産 生活関連

穴吹興産(株)

3.2. 日本各地へエクイティマネーを供給



3.3. 多様な投資領域

●・・・J-Startup選定企業
●・・・J-Startup KANSAI選定企業
●・・・J-Startup KYUSHU選定企業
●・・・J-Startup TOHOKU選定企業



ロボティクス・ものづくり

(株)イノフィス

Connect(株)

(株)センシンロボティクス ●

(株)ミューラボ ●

モビリティ

(株)ZMP ●

(株)エアロネクスト

(株)かもめや

AI・IoT

LAPRAS(株)

Hmcomm(株)

(株)ユビレジ

(株)Space Power Technologies ●●

AZUL Energy(株) ●

DX

FRAIM(株)

リマールエステート(株)

(株)Catallaxy

半導体

(株)TMH ●

航空・宇宙

PD エアロスペース(株) ●

(株)ALE ●

医療検査装置

ライトタッチテクノロジー(株)

(株)アイ・モーションテクノロジー

再生医療・遠隔診断

iHeart Japan(株) ●

トレジェムバイオフィーマ(株)

(株)ネクイノ

(株)T-ICU ●

健康管理・未病管理

あっと(株)

(株)ミルテル

(株)PetVoice

バイオテクノロジー

(株)HIROTSUバイオサイエンス

(株)セツロテック

レグゼル(株) ●

採用支援・能力開発

リーディングマーク(株)

(株)Schoo

食糧問題・高付加価値化

リージョナルフィッシュ(株) ●

(株)坂ノ途中 ●

(株)世界市場

(株)epoc

脱炭素・環境保全

(株)エネコートテクノロジーズ ●

東北小水力発電(株)

(株)バイオーム ●

ロス削減・シェアリング

(株)ビッグウッド

Ekuipp(株)

フィンテック・マイクロファイナンス

五常・アンド・カンパニー(株) ●

(株)MILIZE

コングラント(株)

ファルス(株)

BPO・ナレッジ共有

(株)ドリームキャッチャー HR Tech

Baseconnect(株) ●

子育て・教育

ユニファ(株) ●

BABY JOB(株) ●

(株)トワール

(株)トラーナ

福祉(児童・介護・障がい者)

(株)Lean on Me

(株)GEA

(株)笑美面

トリニティ・テクノロジー(株)

地域振興

いわきユナイト(株)

(株)TRY HOOP

(株)起点

工芸・エンターテインメント・アート

ニューワールド(株)

(株)オーディオストック

(株)Casie

3.4. ソーシャルインパクトをテーマとするファンドの投資事例

おおさか社会課題解決ファンド(1号ファンド)が 貢献する社会課題テーマ



3.5. GSG国内諮問委員会が発刊する調査レポートにFVCの取り組みが掲載



- Global Steering Group for Impact Investment (GSG) 国内諮問委員会が、2016年より毎年発行している本レポートは、アンケート調査に基づき日本のインパクト投資の投資残高を提示するとともに、インパクト投資取り組み機関の事例およびアンケートから得られた国内のインパクト投資の動向を紹介するものです。
- 2021年度のレポートにおいて、FVCと各地域金融機関が地方創生に資するために設立・運営している地方創生ファンドの取り組みに着目いただき、ケーススタディとして掲載されました。

第2章：日本におけるインパクト投資市場
－インパクト投資・インパクト企業のケーススタディ
(P106～P114)



Future Venture Capital

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。